

宇都宮 全国不動産会議県大会 市長、LRT効果をPR



1200人が参加した全国不動産会議県大会

【宇都宮】全国不動産会

議栃木県大会が19日、JR宇都宮駅東口のライトキューブ宇都宮で開かれた。佐藤栄一市長が講演し、全国から集まった不動産関係者約1200人に次世代型路面電車(LRT)を軸にした市のまちづくり構想を紹介した。

全日本不動産協会主催、不動産保証協会共催。年1回、全国の主要都市を会場に開いており、59回目。

佐藤市長は講演で、9月のLRT利用者が約40万人だったこと、沿線で6階以上の高層建築物が増え、地価も上がっていることなど開業効果をPR。小学校も新設されたことから「中学校の新設も考えていけない」といけぬと見通し、JR宇都宮駅西側への延伸については「一気に再開発をかけ、52万人都市にふさわしい事業を展開していく」

と力を込めた。

開会式では、両協会の中村裕昌理事長や稲川知法県本部長、福田富一知事らがあいさつ。閉会後の研修では参加者が班に分かれてLRTに試乗し、沿線の街並みを視察した。県大会は2020年の予定だったが、新型コロナウイルス禍で延期になり、LRT試乗が実現した。

(瀬戸覚) 巨